

令和5年度「市民と議会の対話集会」記録

総務企画委員会

- 開催日時 令和5年11月9日（木）14：00～16：00
- 開催場所 苗木交流センター ホール
- 懇談先 市内15地区のまちづくり組織役員等（26名）
（地域一括交付金交付先16団体 ※神坂地区2団体）
- 出席議員 総務企画委員
田口文数（委員長）、宮嶋寿明（副委員長）
岡崎隆彦、吉村浩平、木下律子、島崎保人、松崎 誠
- 懇談テーマ 地域一括交付金を活用したまちづくりについて
- 懇談内容 地域一括交付金を活用したまちづくりの現状・成果・課題について
（特に成果のあったこと、特に課題となっていること）

中津西地区

- ・避難所を中心とした活動、ゼロカーボンシティの啓発、広報誌やホームページでの情報提供、地域イベント、子ども見守り等「防災」「環境」「教育」などに交付金を活用している。
- ・地域と行政が一緒になってまちづくりに取り組むことが重要だと考える。また、視察報告にあったように、職員が共に汗をかくことが出来れば一体感が生まれるのではないかと。
- ・人が集い、つながる場所が必要であり、学校の近くに拠点があれば嬉しい。
- ・交付金は均等割り、人口割りで配分されるが適正であるかを考えてもらいたい。
- ・繰越金の上限は25%と決まっているが、長期的に計画を組む場合に障害となる。

中津南地区

- ・災害発生等を想定し、行政が動く前の避難所開設訓練を行った。交付金で、ワンタッチテントや簡易トイレを購入し、各避難所に設置する活動を行っている。しかし、中央公民館に防災グッズ等の置き場所が無い。
- ・三世代芸能交流フェスティバルを行い、地域と文化の交流事業を行っているが、観に来る人が少ない。
- ・食用油のリサイクルに取り組んでいる。

中津東地区

- ・子ども食堂、広報誌の発行、スポーツ大会、避難所開設訓練、食用油のリサイクル、中

山道歴史研究などを行っている。

- ・繰越金の25%は認められているが、それ以外は返金となるので、改善を要望したい。

苗木地区

- ・イベント交付金で、あんどんまつりを開催している。区長会が中心となり、苗木全地区から選出された係（実行委員）が集まり、準備から片付けまでを行っている。係も参加者も交流を深めることが、まちづくりの最たるものだと思っている。
- ・まちづくりには様々な地域課題への取り組みが必要だと思う。まち協職員が、精力的に取り組めば取り組むほど、雇用日数が足らなくなってしまう。まち協職員の安定的雇用が課題であり交付金の増額が必要である。

坂本地区

- ・中津川市全地区の地域一括交付金の予算資料が配布されていないことを残念に思う。
- ・地域まちづくり活動推進条例第8条第1項に、地域まちづくり活動に関する財政的支援と明記されているが、貧弱だと思う。
- ・坂本地区では、住民に年間一軒200円の負担をして貰っている。それがなければ活動は不可能である。交付金額の充実を要望したい。

落合地区

- ・地域イベント事業では、落合ふるさと祭り、敬老会、中山道落合本陣祭りを開催し地域内外との交流を行っている。まちづくり組織支援事業では、本陣のガイドボランティアや災害に強いまちづくりを目指して自主防災会と防災士の連携を行っている。協働の生活環境づくり事業では、落合川の環境整備や通学路の安全確保を行っている。地域課題解決事業では、空き家や新規居住者調査をして移住に力を入れている。
- ・地域の伝統文化を継承する次世代の担い手がないのが課題である。

阿木地区

- ・交付金を活用し、阿木そば、つるし雛、阿木夏祭りを行っている。この伝統文化を後世に伝えていきたいが、如何に継承していくかが課題である。
- ・空き家の活用、そして土地の確保についても研究し、移住者の定住に繋がる環境をつくることに力を入れている。
- ・事務局や事務局職員を雇用できる予算はなく、交付金を見直して欲しい。

神坂地区

- ・令和6年度、馬籠と神坂のまち協統合を予定している。事務局を設置するには相応の予算が必要となるため、予算の充実を要望します。
- ・湯舟沢河川公園では、桜、花桃、紅葉などを植栽して景観保全に努めている。また令和3年度からは、花祭りで桜や花桃のライトアップを行って、散策や交流の場を創出している。
- ・古代ロマン街道の聖地である東山道を、ハイキングコースなどの観光資源とする研究を

行っている。

馬籠地区

- ・中山道宿場祭りを再開したいが、多くの費用が必要であるため、予算の充実を要望したい。
- ・馬籠には、多くの外国人が観光客として来るが、災害時の対応策が課題である。

山口地区

- ・地域イベント事業では、五平餅祭りを開催していたが、コロナ禍により開催を中止とした。今年は出来る状況になったが、復活は困難であった。代わりに、夏祭りを開催した。協働の生活環境としては、ふるさと椿街道の椿や紅葉の植栽と管理、また、こども園、小学校の環境整備を PTA と共に行っている。中学生が通うバス停の修繕や、集会所・駐車場の整備にも交付金を使っている。
- ・まち協の事務局職員を雇おうと活動したが、成り手が無かった。

坂下地区

- ・与三郎祭り、花の湖そばの花祭りと大きなイベントが2件あり、来客も多く賑わった。今年から実行委員に若い人が入り成功に導いたと考えている。
- ・まち協組織に若い世代を取り入れていくことが重要であると考えているが、なかなか若い人が入ってくれない。しっかりとした組織、雇用の環境整備が必要と考える。
- ・地域課題解決事業については10万円の交付金があるが、この部分の充実を要望したい。

川上地区

- ・地域イベント事業では、夕森もみじまつりを開催している。協働の生活環境づくり事業では、小学校のスケート場管理や草刈り、通学路の除雪、夕森の環境整備などを行い、川上の一斉清掃は年3回行っている。
- ・事務局、まち協の役員手当などは無く、すべてボランティアで活動している。
- ・事務局のしっかりとした位置付けと交付金の充実を要望します。

加子母地区

- ・木匠塾などの域学連携事業で交付金を使用し人づくりを行っている。
- ・事務局は、総合事務所の一角を借りて、少人数少費用で運営を行っている。
- ・公民館の指定管理を行いながら地域づくり、生涯学習、社会教育の振興を行っていきたい。

付知地区

- ・イベントの実行委員会は、若い人が中心に前向きに行っている。
- ・住民全員がまち協の会員であると認識して、地域の活性化に協力をしている。
- ・運営費の内訳としては、交付金以外は寄付金と協力金で成り立っている。まちづくりや地域振興を行おうとすると資金が必要である。
- ・まち協を活性化して前向きに事業を進めていくには、30代～40代の人材が必要であ

り、そのためには、安定した雇用が必要である。

福岡地区

- ・今年からふるさと祭りと産業祭を一本化し、音楽を中心とした新たなイベントを立ち上げ多くの人で賑わった。その他の活動としては、ローマン遊歩道の整備、ウォーキング大会などを行っている。
- ・ニッ森ふれあいクラブ、体育協会福岡支部、文化協会、常盤座歌舞伎保存会の支援をしている。
- ・リサイクルボックスを活用して資金を集めている。
- ・事務局の若返りを望んでいるが、なかなか人材が無い。若い人を雇うには安定的な雇用が必要である。

蛭川地区

- ・交付金は、イベントや環境整備などに使用している。
- ・まち協に関係するすべての組織で高齢化が進んでいる。
- ・事務局の人件費は寄付で賄っているのが現状である。
- ・事務局の人員の確保、後継者がいないのが一番の課題である。

【意見交換】

蛭川地区：視察市の取り組みの中で、実際、地域の住民が感じている課題は何ですか。

議 員：南魚沼市の課題としては、次世代の人材がいない・育てていないと感じていない、組織の活動拠点・組織が住民に浸透していない、地域ごとの取り組みの格差などの課題がある。

蛭川地区：少子高齢化が一番の課題であると思う。若い人が、子どもを育ていく魅力あるまちづくりが重要である。

議 員：事務職員の安定的雇用についての意見を数人の方からいただいたが、その他の方の意見はいかがか。

坂本地区：保険、保障についても是非考えて欲しい。

付知地区：若い世代を雇用するためには、年間400万円～500万円の人件費が必要ではないか。時間給950円では来ていただけない。まち協の仕事は魅力のあるもので、その対価もしっかりしていることが重要である。また、指定管理の考え方が、市役所職員の人件費と比較して安く見積もってあるような気がするが、若い人を雇用するには、そこを変えていかなければならないと思う。

川上地区：まち協職員の給与を、交付金から出すという考えもあるが、まちづくりは中津川市の大きな柱であることから、市の職員を事務局に配置していただくことが望ましい。

中津西地区：中津三地区を代表しての意見です。まち協や区長会の事務は、基本的には市からのサポートは受けていない。まちづくりをする人材を市から投入してもらいたい。